

生活1課の『新しい生活様式』と寮運営について

厚木精華園 生活1課
明戸 美穂
谷畑 喬峰
盛永 智子

1.はじめに

本年2月より世界的に流行している、新型コロナウイルス感染症は私たちが支援する施設での生活にも大きく影響を及ぼしている。厚木精華園でも感染症予防のため、『新しい生活様式』が始まった。これまでの生活がどのように変化したのか、『新しい生活様式』になって利用者の皆さんの様子はどのように変わったのか、今後も新型コロナウイルス感染症と付き合いながら、私たちが目指す『新しい生活様式』と寮運営について取り組んだことを報告する。

2.『新しい生活様式』になるまで

国の緊急事態宣言を受け4月13日より厚木精華園としての対応は次のような対応に変わった。

- ①出勤前に検温
- ②手洗い、手指消毒
- ③マスク着用の徹底
- ④寮内消毒や換気
- ⑤生活1課は2寮体制のため、1日の職員体制についても可能な限り2つの寮を行き来せず、勤務寮を固定する。やむを得ず寮をまたぐ場合はその職員を同一人とする。
- ⑥生活介護利用者の日中の活動は、4月13日から日中活動室には行かずに生活課ごとの対応とする。
なお、入浴については通常どおり実施する。
- ⑦食事の配膳車の受取時間をずらしての対応をとる。

このことにより利用者の方は、テレビを見たり話しをしたりして過ごしていたサロンが、食事の時間になれば食堂に変わった。活動に出かけていた日中活動室にも行くことができなくなり、

1日を寮内で過ごすことになった。また、訪問介護マッサージ、外出支援サービスの利用やオンブズマン相談会など外部の方と関わることも自粛しなくてはならない状況になった。

3.『今までの生活』と比べて

5月25日の緊急事態宣言解除後の厚木精華園の対応

- ・基本的に寮体制は継続、ただし食堂を活動室として使用してよい
- ・外出は自粛するがファミリーレストランや寿司屋などのテイクアウトは利用してもよい

緊急事態宣言前の生活様式に全て戻すことはせず、感染症予防を考えながら新しい生活様式への取り組みを進めた。

(1)生活1課の『新しい生活様式』を整えていくために、職員を対象としたアンケートを実施。

①メリットに感じる点

ア 食事が落ち着いてとれる

今までの1課	『新しい生活様式』
<ul style="list-style-type: none">・食堂内全体がざわつき騒然としていた (2寮合同のため食堂に約34人)・利用者同士のトラブルが多い・音や声に反応し落ち着かない・職員が利用者対応に入るため、食事を待っていただくなど 食堂全体の動きを止めてしまう など	<ul style="list-style-type: none">・利用者の人数が少ない(1寮17名)・静かな雰囲気・落ち着いて食事ができる など

令和2年度 体験交流セミナー③

イ 見守りが行いやすくなった

今までの1課	『新しい生活様式』
<ul style="list-style-type: none"> ・見守りが難しいため、順番に食事を提供していた ・食堂とサロン両方に利用者がいた ・職員の配置がばらけるため、見守りの徹底が難しい <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ同時に食事の提供ができる ・食堂1ヶ所に利用者が居るので見守りがしやすい <p>など</p>

ウ 移動時間がないのでのんびり過ごせる

今までの1課	『新しい生活様式』
<ul style="list-style-type: none"> ・寮から食堂への移動が、10分～15分以上かかる ・食事前は慌しい ・朝の利用者の様子により、食事の時間が遅れる ・3階の活動室まで送迎に時間がかかる <p>など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間にゆとりが持てる ・利用者個々の体調に合った支援を提供しやすくなった ・ほぼ全員活動に参加できている <p>など</p>

②デメリットに感じる点

ア 日中活動と食事場面の生活の切り替えが無い

イ 利用者同士の交流が減った

今までの1課

目安の時間	利用者の動き	職員の動き
9:00～9:15	各寮で待機	・各寮で見守り
9:25～9:30	各寮サロンにて朝の連絡会	・支援員室で打ち合わせ
9:40～	各寮サロンにてラジオ体操	・各寮にてラジオ体操 朝の連絡会
	お茶提供	・お茶提供
9:50～10:00	各寮から活動室へ移動	・作業室へ送迎
10:00～10:20	日中活動	

新しい生活様式

目安の時間	利用者の動き	職員の動き
9:00～9:15	各寮から食堂へ移動	・各寮から食堂へ移動
9:25	食堂にてラジオ体操	・支援員室で打ち合わせ ・食堂でラジオ体操
9:25～30	食堂にてお茶提供 朝の連絡会	・食堂にてお茶提供 ・朝の連絡会
9:45～10:45	日中活動	・作業見守り ・寮内環境整備

今までの生活1課では、朝食後、各寮のサロンで朝の連絡会、ラジオ体操を行い、お茶を提供後、希望者は3階の日中活動室で日中活動を行っていた。日中活動室へ移動するには車椅子が一度に4台乗るエレベーターを使用する。生活1、2課の利用者の方は車椅子を使用している方が多く、エレベーターは混雑し移動に時間がかかった。移動に時間がかかるため、『今までの生活1課』では10時～10時20分の約20分程度の日中活動の時間となり、日中活動の時間が短いという課題があった。

『新しい生活様式』になってからは、各寮で朝食を済ませた後、全員が食堂に集まり、朝の連絡会、ラジオ体操を実施後、お茶を飲み食堂で日中活動を行うようにした。日中活動は、9時45分～10時45分までと、今までよりも活動時間を多く取ることができ、活動に参加する利用者も増えた。利用者同士声をかけあって参加する方もいた。また、食堂を活用しているため、デメリットの、『日中活動と食事場面の生活の切り替えが無い』や『利用者同士の交流が減った』については、少し解消することができた。

4.まとめ

見えてきた課題・今後について

(1)環境面での課題

- ①食堂で使用していた食事台や足台は、食事のテーブルが変わったため見直しが必要となった
→台の高さを調整しサロンでも使用できるように改善した。

食事台



足台



(2)日中活動や余暇の幅を広げる

- ①外部サービスの利用
- ②ボランティアの活用
- ③個々に合わせた過ごし方の提供

50・60歳代の方には、外出支援サービスの利用、傾聴ボランティアや絵手紙ボランティアの活用により、気分転換を図ることが必要である。一方で、70・80歳代の方には身体を休める為に午睡やマッサージが必要な方もいる。年齢によって生活パターンが異なるため、個々に合わせた過ごし方の提供が課題となる。職員一人一人が毎日の生活の中で、利用者の方の状態を把握し、楽しめるような時間作りを意識(工夫)することが課題として挙げられる。

また、『新しい生活様式』になり、寮内で過ごす時間が増えたことで、利用者の方と向き合う機会も多くなった。気分転換ができるように寮で楽しめることを模索しながら利用者自治会でどんなことがしたいか利用者の皆さんから意見を聞いた。寮内では例年、行うおやつ作り、自動販売機で好みのジュース購入、ボウリングや塗り絵、などのほか、

利用者の皆さんからの要望で、金魚すくいや花火鑑賞を企画、庭の色づいたみかんを取りに行くなど季節に合わせて楽しむことができた。

食堂で全員が過ごす午前中は受診や通院がなく職員配置に余裕があると、外に出て日光浴も行った。今後は楽しい時間と合わせ、日課と日課の間のゆとりの時間を有効に活用し、環境整備なども積極的にを行い快適な住まいの提供を考えていきたい。

5.最後に

各部署の取り組みや工夫について

(1)看護課

新型コロナウイルス感染症予防の対策として、毎日の検温を実施し勤務室にはビニールカーテンで仕切りを設置。清掃は医療用ハイターを使用し、共有する電話機、パソコンはアルコール消毒を行っている。課員は処置やラウンド時にマスク、予防衣を着用し、処置ごとに手洗い、アルコール消毒を実施。また食事や休憩は時間をずらし3密を避けるようにし対応している。



(2)生活2課

4月上旬に胃腸炎が流行し寮体制でのゾーニングがいち早く実施された。ゾーニングでのメリットのひとつとして、食堂への移動がなくなり転倒リスクが軽減した。また、食事場面が寮別となり静かな環境ができ利用者がより落ち着いて過ごせるようになった。逆にデメリットとしては、課内の移動距

令和2年度 体験交流セミナー③

離が少なくなり、運動量が減少したことが挙げられる。

(3)生活3課

近くのお店で豪華な焼肉弁当やテレビで話題になった無人販売の「たまごサンド」などを購入し、公園のベンチでのんびりと食事を楽しんだ。寮内では、カードゲームが流行った。また居室前の屋外スペースで、土を耕し、きゅうりやかぼちゃを育てそれが実となりみなさん喜ばれていた。



(4)日中支援課

グループホームや在宅の利用者は地域で生活しているため、感染予防として職員とともに「持ち込まない」ことに留意して体調管理に努めている。

活動については、新型コロナウイルス感染症予防として、活動時間を短くし、曜日ごとに活動室に来る課を決め、各課の利用者が交わらないように取り組んでいる。今までは対面で座り、日中活動や食事をしてきたが、活動室内でもゾーニングを行い、ホーム・在宅利用者とも一定方向を向き、かつ距離を保っている。外部との関りについても制限しつつ、各課が交わらないよう時間差で対応する取り組みをしながら、理美容やファミリーマートの販売会等「自粛ではなく工夫」して活動を行っている。

令和2年度 体験交流セミナー③



新型コロナウイルス感染症予防の対応で、制限された生活の中でも利用者の皆さんの思いに寄り添い、利用者の皆さんも職員も笑顔で暮らすことができる生活1課を目指し、充実した生活が送れるように今後も取り組んでいきたいと思う。